

CHAPTER 2

メジャー・スケールを歌う

Cメジャー・スケールを歌う 14

練習のポイント

スケール練習はソルフェージュを練習する上で最も基礎となるもの。

自分の出した声をよく聞きながら、

次の音をイメージしながら、

正確に！

ゆっくりと！

一定のテンポで。

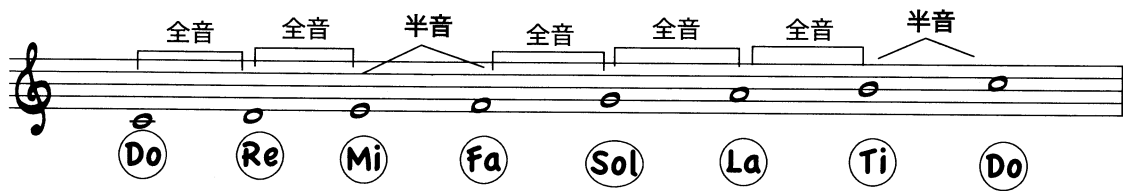
楽器練習

ここには規則的なスケールのパターンを挙げた。楽器に合わせて音域を拡張して練習せよ。楽器のスケール練習にこれらのパターンを応用することで、実用的なスケール練習となる。4分音符で書かれたスケール練習は、8分音符に置き換えて練習することも効果的。

Cキーで書かれたこれらを、ソルフェージュで歌いながら、C以外のキーでも練習せよ。Cキーと同じソルフェージュで、C以外のキーで練習することは移動Doで演奏することになる。口が塞がる楽器の場合は頭の中で歌うこと（サイレント・シンギング）により同様の効果が得られる。

Cメジャー・スケールを歌う (2度インターバルを歌う)

Do Re Mi Fa Sol La Ti



Cメジャー・スケールはピアノの白鍵をC音から始めたものと同じスケールである。DoからDoまでの1オクターブの間には7つの間隔があるが、その内2つは半音で、他(全音)の半分の間隔しかない。

2音間の関係、距離のことをインターバル Interval (音程) と呼ぶが、メジャー・スケールの1オクターブ間には7つのインターバルが存在し、全て2度インターバルである。

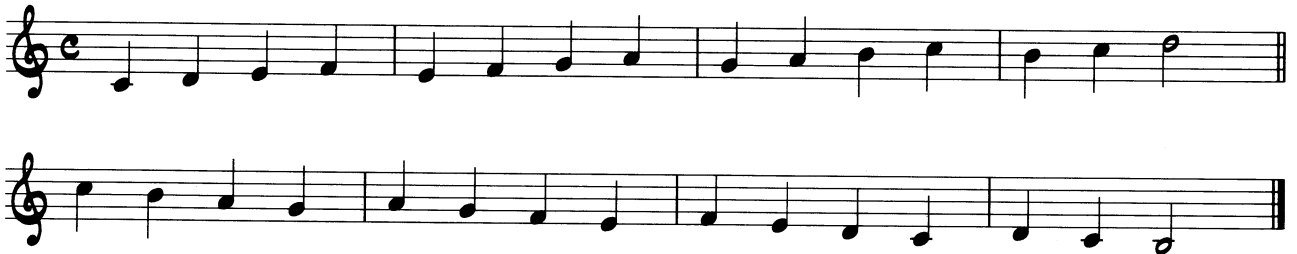
全音のインターバルをMajor 2nd (長2度) といい、半音のそれをminor 2nd (短2度) と呼ぶ。

2-01



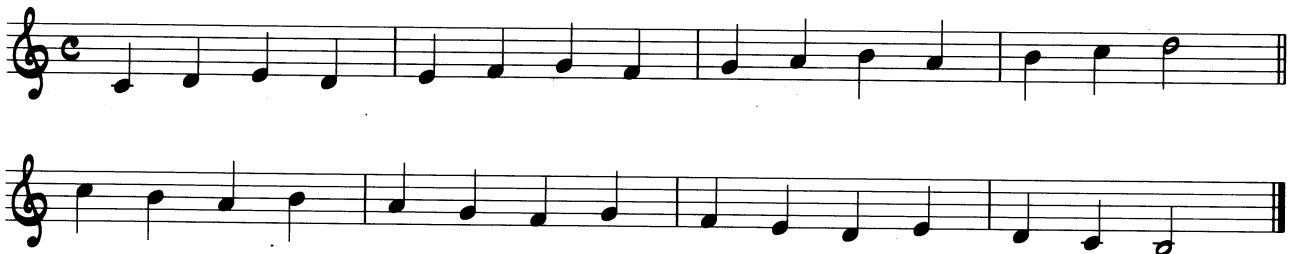
練習は、音階を上行下行ともに伴奏なしで、正確に歌うことから始める。最初に楽器で Do またはトニック・コード(主和音)を鳴らしてから歌い始め、歌い終えた後は最後の音が合っているか楽器で確認する。最後の音が合わない場合、間違っている場所が分からない場合は数小節毎に楽器で確認する。決して楽器プレイの後に歌ってはいけない。半音のある場所、Mi とTi が低くなりがちなので特に注意する。これは次章のインターバルを歌う基礎となるものなので、完璧を目指してほしい。

2-02



テンポは4分音符が1歩を歩く速さでゆっくりと!

2-03

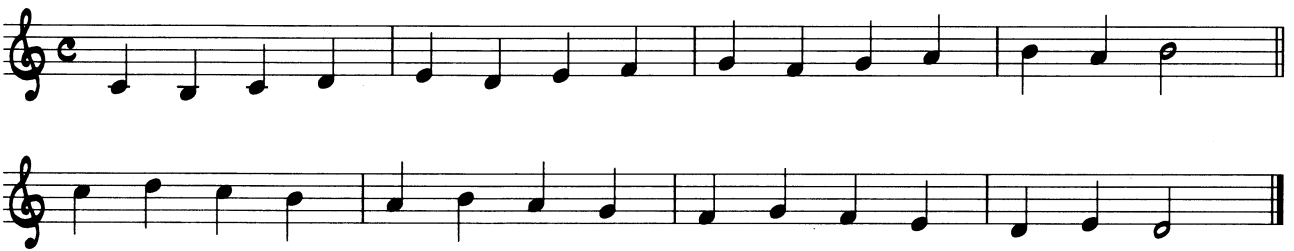


ソルフェージュは、発音よりも音程がはっきり分かる歌い方で！

2-04



2-05



2-06



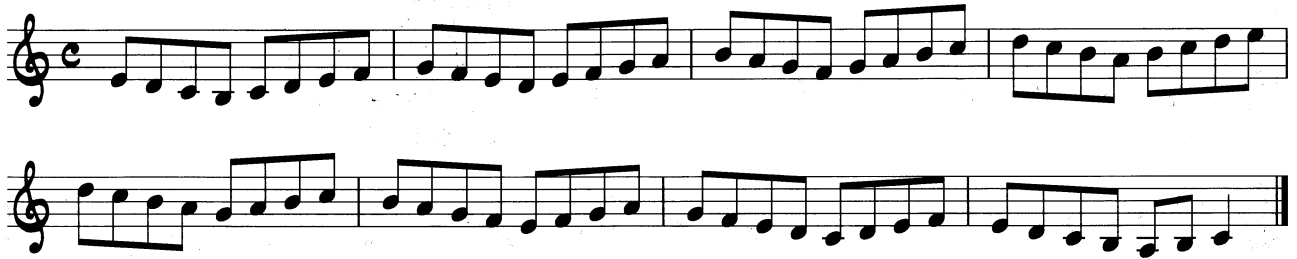
2-07



2-08



2-09



2-10



2-11



2-12



正確に歌えるようになったら、早いテンポで！

作曲

スケールで動くメロディーは、メロディーは何音目で上行するか下行するだけで決まると言える。後はメロディーにリズムを与えるだけである。スケールのなフレーズは静的なメロディーとなる。

課題： スタンダード曲等を調べ、スケール的なメロディーが曲のどの部分で使われているかを研究せよ。

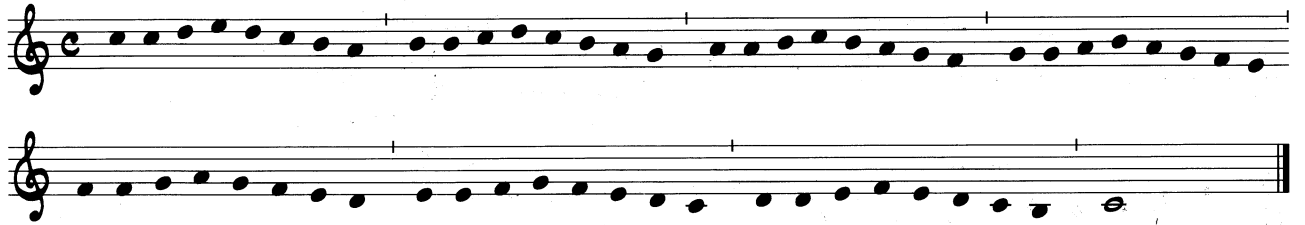
2-13

2-14

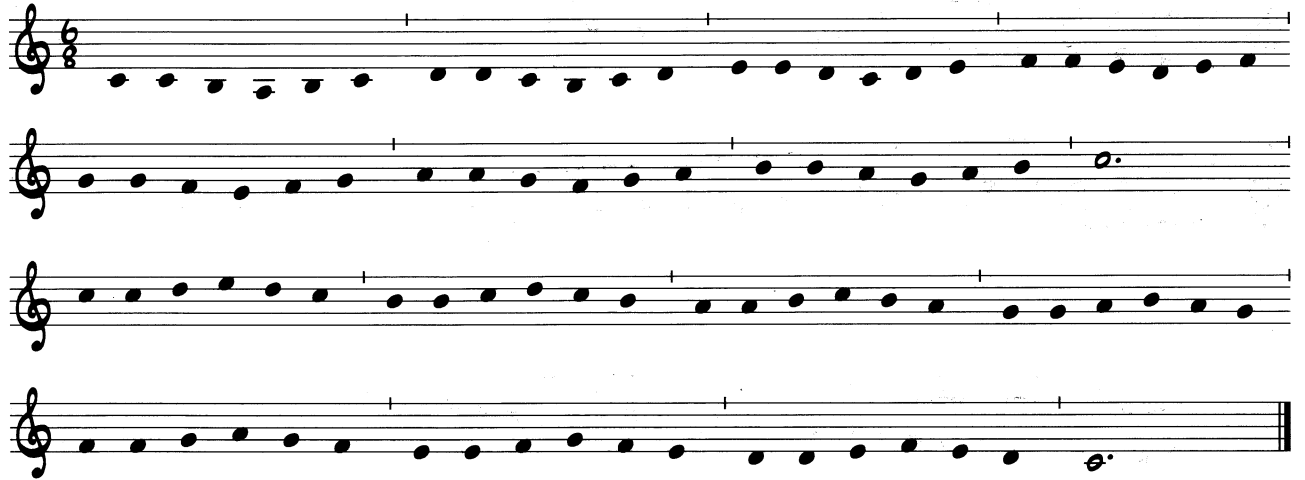
2-15 mix. of 2-05 & 2-06

2-16 variation of 2-11

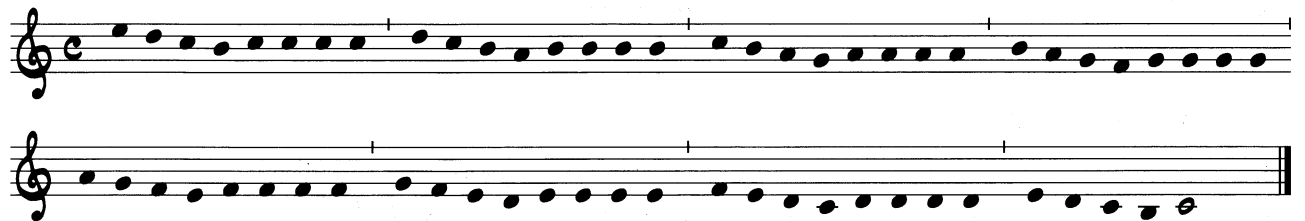
2-17 On the basis of "I'll remember April" or "Smile"



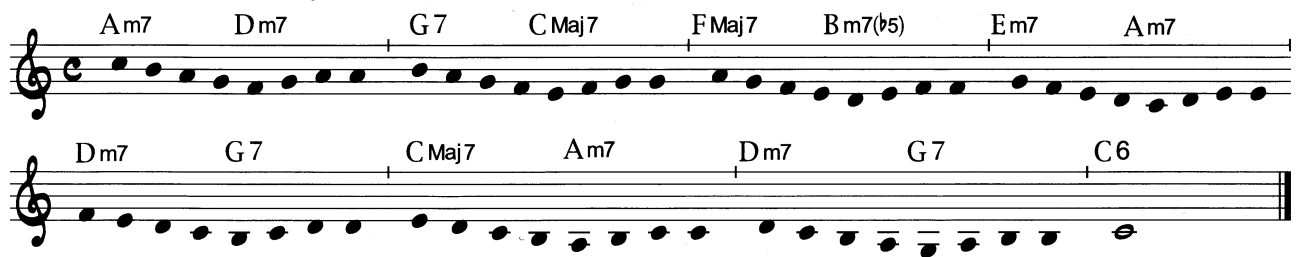
2-18 On the basis of "Waltz for Debby"



2-19 On the basis of "The Shadow of your smile"



2-20 On the basis of "Fly me to the Moon"



Am7 Dm7 G7 CMaj7 FMaj7 Bm7(b5) Em7 Am7

Dm7 G7 CMaj7 Am7 Dm7 G7 C6

2-21 On the basis of "Who can I turn to?"

